主題　　小中学校が一体化して実践する一貫教育

～運営体制の視覚化と社会性育成機能の発揮を通して～

芳野小中一貫校（熊本市立芳野小学校　熊本市立芳野中学校）

要　約

芳野小中一貫校では運営基盤を見直し、運営体制を視覚化した。９年間を見通した教育推進のために地域を学ぶ芳野学を柱としたカリキュラムを作成し、社会性育成機能の発揮を意識した。教科等指導において小中異学年交流の場を増やし、「憧れ憧れられる育ちの環」の形成を試みた。その結果、方針の周知や組織、教育活動の明確化が一貫性を意識した有機的な実践の持続につながり、目指す子ども像に迫る教育を具現化することができた。

＜キーワード＞小中一貫校、運営体制の視覚化、芳野学、社会性育成機能、小中異学年交流

１　研究主題について

(1) 研究主題

小中学校が一体化して実践する一貫教育～運営体制の視覚化と社会性育成機能の発揮を通して～

(2) 主題設定の理由及び主題について

本一貫校は芳野小中一貫スタンダードに基づき小学校一部教科への中学職員の乗入れ授業、小中合同研修等を実施してきた。本市初の一貫校として、順調に進展しているように見えた。しかし、県外先進校を視察して、本一貫校の取組が小中接続を目的とした小中連携に近いことに気付いた。小中の系統や共通理解が曖昧であり、一貫校としての機能を生かす余地のあることを痛感した。

そもそも小中一貫校は「組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態」（『小中一貫した教育課程の編成･実施に関する手引き』）(1)である。系統の確立や理解、共有は課題の一つであり、そのため小中一貫校には「一貫教育にふさわしい運営体制の整備」(1)が不可欠である。そこで、運営体制の整備に着手し、小中学校が一体となり９年間の系統を意識した小中一貫教育の推進へ向けて改善することにした。

①「運営体制の視覚化」について

独立した小学校及び中学校が有機的な教育を推進するためには、一貫教育の方針を明確化し、全職員による運営組織の確実な理解が必要である。そこで教育方針をⓘ芳野小中一貫校の教育ⓘⓘ校務運営組織図・年間予定ⓘⓘⓘ校務運営定款で構成し、視覚化を図った。

運営体制の視覚化をすることで、次のような利点を引き出す。

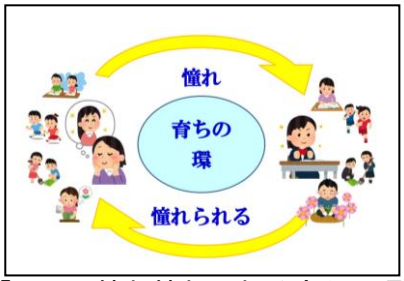
ⓘ【芳野小中一貫校の教育】小中一貫校としての目標や経営理念等概要を明示
→一貫校の経営理念や小中学校教育目標を理解して、独自の教育を実践することができる。
ⓘⓘ【校務運営組織・年間予定表】組織全体を把握し各部会の教育活動の見通しを明示
→設置する部会の関係と活動時期を知り、年間を通して計画的に推進できる。
ⓘⓘⓘ【校務運営定款】小中一貫校としての組織の目標等教育方針を詳細に明示
→個々の職員が自身の役割を確認、理解することができる。

以上の利点を生かし、小中両校が曖昧な共通理解の状態から脱却して全職員で９年間を見通した教育を推進する有機的な組織となることを目指した。

②「社会性育成機能の発揮」について

そもそも小中一貫教育が求められる背景や理由には、「教育内容や学習活動の量的・質的充実」「いわゆる『中一ギャップ』」「学校現場の多様化や複雑化」等(1)がある。それらの中で特に芳野中学校校区に求められる事項は「社会性育成機能の強化の必要性」(1)である。

その根拠として、芳野中学校区の現状を挙げる。令和３年４月１日現在の本校区人口は、本市中央区に匹敵する面積に１８１９人（６５歳以上４３．４％、１５歳未満９．１％）(2)である。更に同年１２月の人口は１７７８人に減少するなど、過疎化と少子高齢化の進行が顕著である。地域諸団体役員の高齢化やコロナ禍のため、地域内の交流行事の消滅や中止も続いている。このようなことから地域コミュニティーの衰退が懸念されており、本校区でも「子供たちの集団教育の場である学校の役割への期待は相対的に大きくなっている」(1)のである。



【図１　憧れ憧れられる育ちの環】

そこで、小中学生に適切な集団規模を確保して、目指す児童生徒像「十五の春の姿―ふるさと『芳野』を誇りに思い、夢に向かって自立する児童生徒」の育成を進めることとした。本一貫校には、開校前からの連携や芳野学（生活･総合的な学習の時間における地域学習）、そして小中各校独自の取組の蓄積がある。主にそれら従前の取組を生かし、小中学生双方に対する「憧れ憧れられる育ちの環」(3)（図１）という相乗効果の創出を念頭にⓘⓥカリキュラムマップの作成ⓥⓥ小中異学年交流の増設を実施することにした。

２点に留意してのカリキュラムマネジメントで、次のような利点を引き出す。

ⓘⓥ【カリキュラムマップの作成】芳野学と各教科の資質能力の関連や異学年交流の明示
→９年間の系統を俯瞰した上で、小中協働の取組及び各校独自の取組を推進できる。
ⓥⓥ【小中異学年交流の増設】十分な集団規模における教育機会の増加
→社会性を育成したり、既習事項の振り返りなど学習意欲を向上したりすることができる。
異校種の教員が必然的に連携や協議する場面が増え、協力関係の構築につながる。

以上の観点から、カリキュラムマップで芳野学の９年間にわたる系統や教科等同士の関連を理解した上で小中異学年交流を進め、社会性育成機能を発揮することとした。

③「小中学校が一体化して実践する一貫教育」について

目指す子ども像の達成のためには、小中学校の共通理解に基づいた継続実践が要件となる。職員が主体的に参画し日常指導を実践するためには、目標等の下意上達と定期的なＰＤＣＡが必要と考えた。そこで、一体的な教育活動の持続を目指して、実践を視覚化するⓥⓘ徳知体部会記録表の作成ⓥⓘⓘ研究理論共有と小中合同大研の実施ⓥⓘⓘⓘ小中一貫校だよりの発行を実践した。

この３点の実施から、次のような利点を引き出そうと考えた。

ⓥⓘ【徳知体部会記録表】徳知体各部で立てる目標や手立ての共通理解を図るための記録
→職員が課題等を明確にして参画意識を高め、ＰＤＣＡサイクルの中で継続実践できる。
ⓥⓘⓘ【研究理論共有と小中合同大研】目指す児童生徒像の育成につながる小中合同研修の実現
→同じ理論上で小中互いの授業を研究し、系統を意識して授業改善することができる。
ⓥⓘⓘⓘ【小中一貫校だより】小中一貫教育の地域への広報と取組の整理
→地域へ一貫教育の理解を広げるとともに職員は一貫教育の活動を振り返ることができる。

これらの実践を通して、職員個々に学校運営参画意識の向上と年間を見通した教育実践の促進を図った。

２　取組の実際

(1)　運営体制の視覚化について

①教育方針の共通理解「芳野小中一貫 Spirits」

【図２　芳野小中一貫 Spirits 表紙】

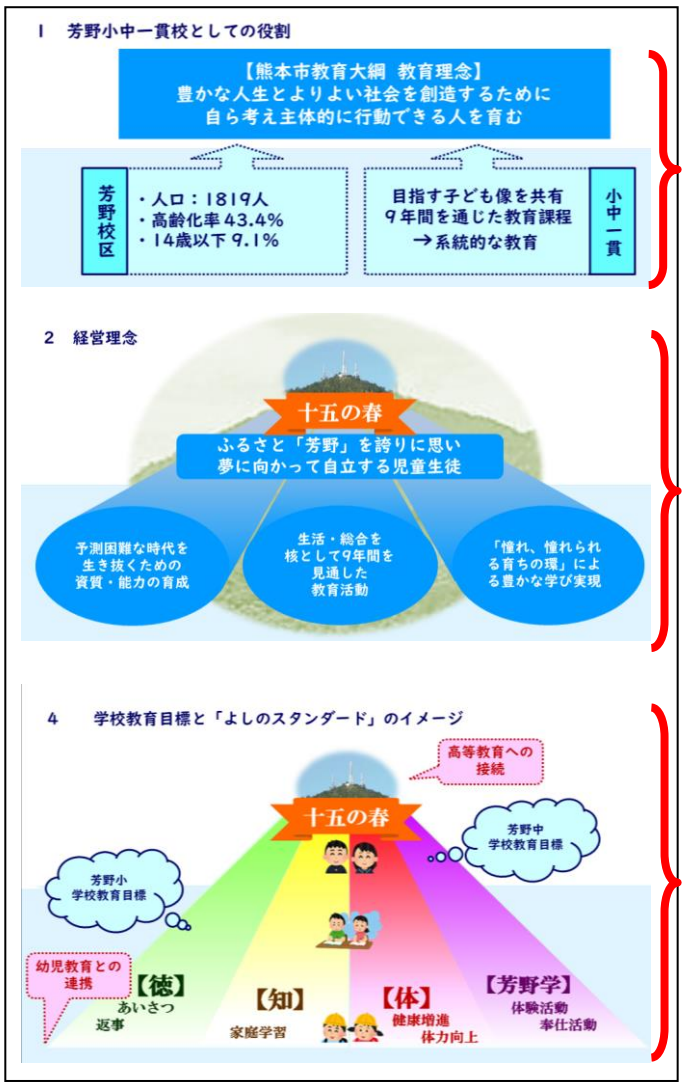
【表１　芳野小中一貫 Spirits の内容】

１　芳野小中一貫校の教育 （経営理念、目指す児童生徒像、各学校教育目標） ２　校務運営組織及び年間予定 （組織図、各部会の目的と活動内容、各部会長、活動予定表） ３　校務運営定款 （目的、組織、事務局、各部会の構成員や活動内容）

運営体制についての全職員への周知に当たり、教育方針を「芳野小中一貫 Spirits」（図２）に取りまとめた。その中に、第１章(2)①に示した㋑芳野小中一貫校の教育㋺校務運営組織及び年間予定㋩校務運営定款を整理した（表１）。

以下に㋑～㋩に関する具体的資料（図３～６）と周知時の説明を示す。

ア　㋐芳野小中一貫校の教育



「芳野小中一貫校としての役割」
芳野校区の現状と小中一貫校の機能をもとに、熊本市教育大綱基本理念を示し役割を解説

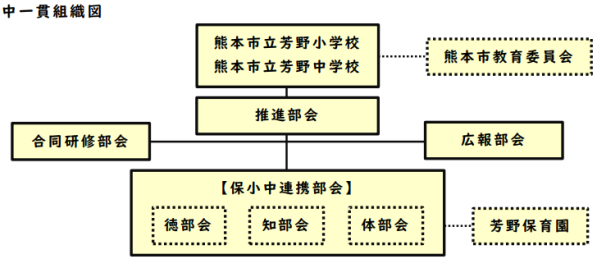
「経営理念」「目指す児童生徒像」
学習指導要領に示された資質・能力の育成と、芳野学を柱とした９年間を見通した教育活動、社会性育成機能の発揮から創出する「憧れ憧れられる育ちの環」による児童生徒育成の理念を解説

「学校教育目標と『よしのスタンダード』のイメージ」
小中各校の学校教育目標と「よしのスタンダード」の関係を示し、一体化した教育の推進を解説

【図３　「芳野小中一貫校の教育」の図解資料（抜粋）】

イ　校務運営組織及び年間予定

1　小中一貫組織図



2　各部会等の目的及び活動内容等

部会名称		目的及び活動内容等
推進部会		本校の運営及び小中一貫教育推進を総括する。
連携部会	徳部会	心の教育や生徒指導について企画して推進する。
	知部会	学力向上のための方策を企画して推進する。
	体部会	児童生徒の健康増進及び教育環境整備について、企画・推進
合同研修部会		授業改善を推進したり、芳野学を構成したりする。
広報部会		小中一貫校としての教育活動の情報を発信し、啓発する。

【図４　校務運営組織と各部会の目的等の説明資料】

「小中一貫組織図」
推進部会の下に合同研修部会、広報部会、保小中連携部会（徳知体各部会）を明記し、保小中連携の日の部会を小中一貫教育に正式に組み入れて連動して意識することを周知

「各部会の目的及び活動内容」
４部会(保小中連携部会は徳知体各部会)の目的と活動内容を明示し、日常の教育を小中一貫教育として共通理解

6　年間予定

月	推進部会	保小中連携部会			合同研修部	広報部	備考
		徳部会	知部会	体部会			異学年交流・合同行事等
4月	○					○	第1回心のとも協議会・通学路危険個所点検
5月	○				○		愛校作業　小中合同運動会
6月	○	○	○	○			小中合同学校評議員会
7月	○					○	第2回心のとも協議会
8月	○				○		リサイクル回収（PTA主催）
9月	○	○	○	○			
10月	○				○		漱石俳句ウォークラリー・芳野中学習文化発表会
11月	○				○		
12月	○					○	第3回心のとも協議会
1月	○	○	○	○			リサイクル回収（PTA主催）
2月	○				○		
3月	○					○	

【図５　年間予定の説明資料】

「年間予定」
各部会の活動月及び予定関連行事を一覧表に示すことで、見通しを持ちＰＤＣＡサイクルによる計画的な推進していくことを解説

ウ　校務運営定款

芳野小中一貫校　校務運営定款

【目的】
第1条　この定款は、芳野小中一貫校における学校運営及び小中一貫教育を推進するために、必要な事項を定める。
2　芳野小中一貫校は、施設分離型の小中一貫校として、学校教育法第21条に規定された義務教育の目標の具現化を図り義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進し、目指す児童生徒像「十五の春の姿　ふるさと『芳野』を誇りに思い、夢に向かって自立する児童生徒」の実現を目的とする。

【組織】
第2条　本小中一貫校（以下「本校」）は、中学校連携型小学校である熊本市立芳野小学校と小学校連携型中学校である熊本市立芳野中学校から成る。
第3条　一貫教育推進委員会（以下「推進委員会」）は、芳野小学校、芳野中学校の職員を以て構成する。
第4条　推進委員会の構成は、次の通りとする。
推進部会、保小中連携部会（徳部会、知部会、体部会）、合同研修部会、広報部会
第5条　組織図は別紙の通りとする。

【事務局】
第6条　事務局は、小中学校の教頭及び小中一貫教育推進コーディネーターで構成する。
2　事務局は、学校長の命を受け、次の事項を行う。
（1）小中一貫教育に係る取組の進捗状況把握

【図６　校務運営定款（一部）】

「校務運営定款」
芳野小中一貫校運営の根拠として全１３条を明示(下記は項目)
・目的…第１条
・組織…第２条～第５条
・事務局…第６条
・推進部会…第７条
・保小中連携部会…第８条
・徳部会…第９条
・知部会…第１０条
・体部会…第１１条
・合同研修部会…第１２条
・広報部会…第１３条
・附則

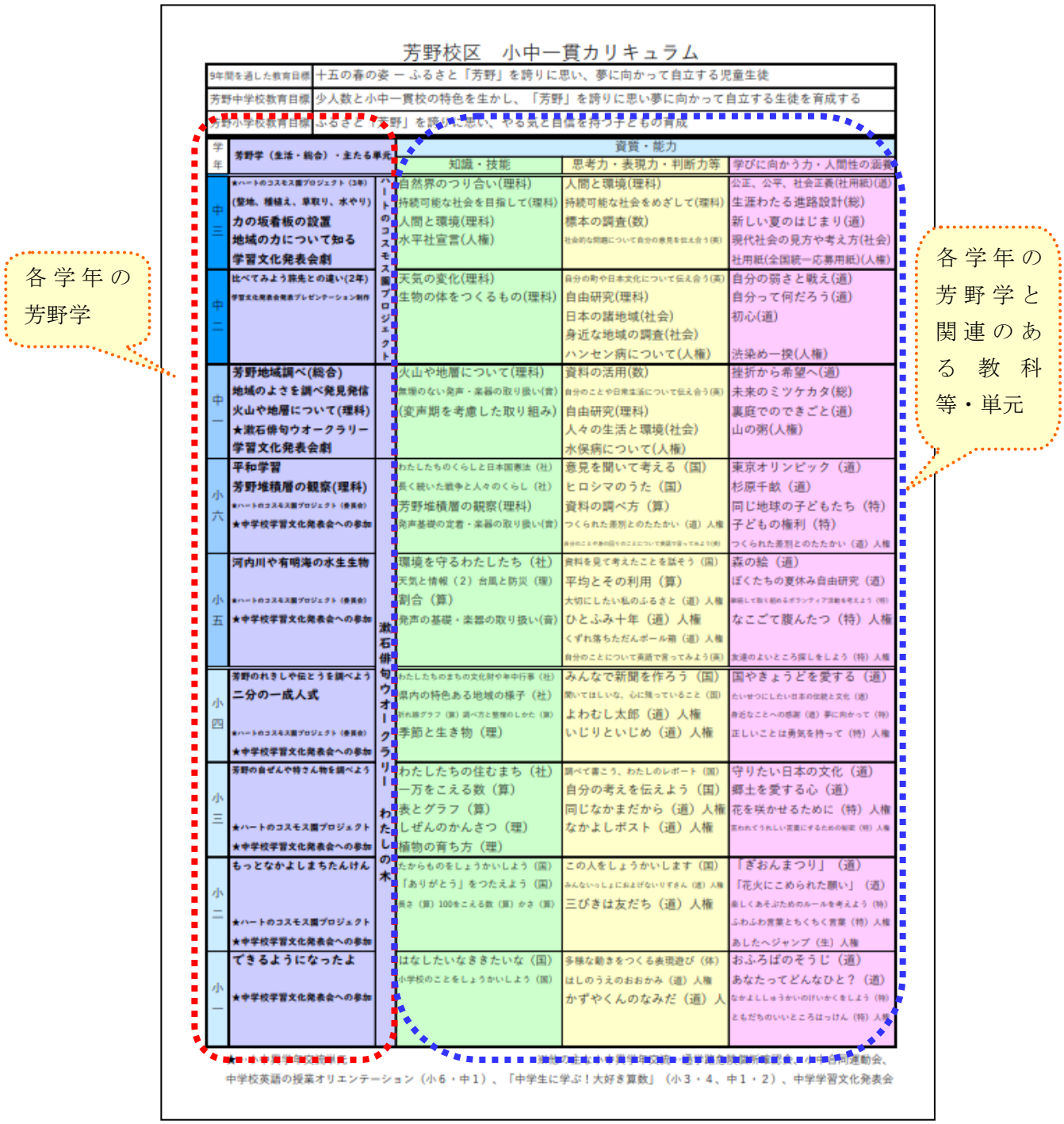
(2) 社会性育成機能の発揮について

本小中一貫校では、適切な集団規模や多様な教職員との交流機会を確保するために、合同運動会や中学教師による乗入れ授業の定例実施等の実践を進めてきた。反面、乗入れ授業定例実施学年は高学年の２学年のみであり、小中異学年交流も年間で２度だけであった。

そこで、教育効果を高めるために、さらなる社会性育成機能の発揮を企図することとした。

①芳野中学校区カリキュラムマップの作成

カリキュラムマップ（図７）は、芳野学を柱として目指す児童生徒像の育成のために活用するものと位置づけた。そこで、９年間の芳野学と他教科等の資質･能力との関連を示すこととした。



芳野校区　小中一貫カリキュラム

9年間を通した教育目標	十五の春の姿 ― ふるさと「芳野」を誇りに思い、夢に向かって自立する児童生徒
芳野中学校教育目標	少人数と小中一貫校の特色を生かし、「芳野」を誇りに思い夢に向かって自立する生徒を育成する
芳野小学校教育目標	ふるさと「芳野」を誇りに思い、やる気と自信を持つ子どもの育成

学年	芳野学（生活・総合）・主たる単元		資質・能力 知識・技能	思考力・表現力・判断力等	学びに向かう力・人間性の涵養
中三	★ハートのコスモス園プロジェクト（3年） (整地、種植え、草取り、水やり) 力の坂看板の設置 地域の力について知る 学習文化発表会劇	ハートのコスモス園プロジェクト	自然界のつり合い(理科) 持続可能な社会を目指して(理科) 人間と環境(理科) 水平社宣言(人権)	人間と環境(理科) 持続可能な社会をめざして(理科) 標本の調査(数) 社会的な問題について自分の意見を伝え合う(英)	公正、公平、社会正義(社用紙)(道) 生涯わたる進路設計(総) 新しい夏のはじまり(道) 現代社会の見方や考え方(社会) 社用紙(全国統一応募用紙)(人権)
中二	比べてみよう隣先との違い(2年) 学習文化発表会発表プレゼンテーション制作		天気の変化(理科) 生物の体をつくるもの(理科)	自分の町や日本文化について伝え合う(英) 自由研究(理科) 日本の諸地域(社会) 身近な地域の調査(社会) ハンセン病について(人権)	自分の弱さと戦え(道) 自分って何だろう(道) 初心(道) 渋染め一揆(人権)
中一	芳野地域調べ(総合) 地域のよさを調べ発見発信 火山や地層について(理科) ★漱石俳句ウオークラリー 学習文化発表会劇		火山や地層について(理科) 無理のない発声・楽器の取り扱い(音) (変声期を考慮した取り組み)	資料の活用(数) 自分のことや日常生活について伝え合う(英) 自由研究(理科) 人々の生活と環境(社会) 水俣病について(人権)	挫折から希望へ(道) 未来のミツケカタ(総) 裏庭でのできごと(道) 山の粥(人権)
小六	平和学習 芳野堆積層の観察(理科) ★ハートのコスモス園プロジェクト（委員会） ★中学校学習文化発表会への参加		わたしたちのくらしと日本国憲法（社） 長く続いた戦争と人々のくらし（社） 芳野堆積層の観察(理科) 発声基礎の定着・楽器の取り扱い(音)	意見を聞いて考える（国） ヒロシマのうた（国） 資料の調べ方（算） つくられた差別とのたたかい（道）人権 自分のことや身の回りのことについて英語で言ってみよう(英)	東京オリンピック（道） 杉原千畝（道） 同じ地球の子どもたち（特） 子どもの権利（特） つくられた差別とのたたかい（道）人権
小五	河内川や有明海の水生生物 ★ハートのコスモス園プロジェクト（委員会） ★中学校学習文化発表会への参加	漱石俳句ウオークラリー	環境を守るわたしたち（社） 天気と情報（2）台風と防災（理） 割合（算） 発声の基礎・楽器の取り扱い(音)	資料を見て考えたことを話そう（国） 平均とその利用（算） 大切にしたい私のふるさと（道）人権 ひとふみ十年（道）人権 くずれ落ちただんボール箱（道）人権 自分のことについて英語で言ってみよう(英)	森の絵（道） ぼくたちの夏休み自由研究（道） 継続して取り組めるボランティア活動を考えよう（特） なこごて腹んたつ（特）人権 友達のよいところ探しをしよう（特）人権
小四	芳野のれきしや伝とうを調べよう 二分の一成人式 ★ハートのコスモス園プロジェクト（委員会） ★中学校学習文化発表会への参加		わたしたちのまちの文化財や年中行事（社） 県内の特色ある地域の様子（社） 折れ線グラフ（算）調べ方と整理のしかた（算） 季節と生き物（理）	みんなで新聞を作ろう（国） 聞いてほしいな、心に残っていること（国） よわむし太郎（道）人権 いじりといじめ（道）人権	国やきょうどを愛する（道） たいせつにしたい日本の伝統と文化（道） 身近なことへの感謝（道）夢に向かって（特） 正しいことは勇気を持って（特）人権
小三	芳野の自ぜんや特さん物を調べよう ★ハートのコスモス園プロジェクト ★中学校学習文化発表会への参加	わたしの木	わたしたちの住むまち（社） 一万をこえる数（算） 表とグラフ（算） しぜんのかんさつ（理） 植物の育ち方（理）	調べて書こう、わたしのレポート（国） 自分の考えを伝えよう（国） 同じなかまだから（道）人権 なかよしポスト（道）人権	守りたい日本の文化（道） 郷土を愛する心（道） 花を咲かせるために（特）人権 苦われてうれしい言葉にするための秘密（特）人権
小二	もっとなかよしまちたんけん ★ハートのコスモス園プロジェクト ★中学校学習文化発表会への参加		たからものをしょうかいしよう（国） 「ありがとう」をつたえよう（国） 長さ（算）100をこえる数（算）かさ（算）	この人をしょうかいします（国） みんないっしょにおよげないりすさん（道）人権 三びきは友だち（道）人権	「ぎおんまつり」（道） 「花火にこめられた願い」（道） 楽しくあそぶためのルールを考えよう（特） ふわふわ言葉ともくちく言葉（特）人権 あしたへジャンプ（生）人権
小一	できるようになったよ ★中学校学習文化発表会への参加		はなしたいなききたいな（国） 小学校のことをしょうかいしよう（国）	多様な動きをつくる表現遊び（体） はしのうえのおおかみ（道）人権 かずやくんのなみだ（道）人	おふろばのそうじ（道） あなたってどんなひと？（道） なかよししゅうかいのけいかくをしよう（特） ともだちのいいところはっけん（特）人

★[illegible]、合同運動会、中学校英語の授業オリエンテーション（小６・中１）、「中学生に学ぶ！大好き算数」（小３・４、中１・２）、中学学習文化発表会

【図７　芳野中学校区カリキュラムマップ】

カリキュラムマップの内容について、更に芳野学に焦点化して系統等を表２に示す。

【表２　芳野学一覧】

学年	主たる内容	備考
中学 ３年	・ハートのコスモス園プロジェクト ・芳野の人のために役立とう	芳野校区創成体験―目指す児童生徒像の具現化
中学 ２年	・比べてみよう旅先との違い ・芳野の職場を体験しよう	芳野校区創成体験へ向けての再発見、学び直し
中学 １年	・地域のよさを調べ、発見発信 小漱石俳句ウォークラリー	芳野校区創成体験へ向けての課題発見
小学 ６年	・認知症サポーターになろう ・避難所でみんなの力になろう	芳野の現状に応じた福祉学習、防災学習
小学 ５年	・芳野をホタルの飛び交う里にしよう ・認知症サポーターになろう	芳野の環境を持続させるために自然保護学習
小学 ４年	・芳野のれきしや伝とうを調べよう 中ハートのコスモス園プロジェクト	芳野に継承されている文化に触れる学習
小学 ３年	・芳野の自然や特さん物を調べよう ・学校のまわりをたんけんしよう 中ハートのコスモス園プロジェクト	芳野の自然や特産物を知る学習
小学 ２年	・よしの校区にどんな人がいるの 中ハートのコスモス園プロジェクト	芳野で働く人や仕事に関心を持つ学習
小学 １年	・できるようになったよ	自分の成長に関心を持ち、周囲の人に感謝する学習
中学 全	・芳野中学習文化発表会（芳野学成果発表等） ・金峰山植樹活動	情報発信、芳野校区創成体験 自然保護活動
小学 全	・漱石俳句ウォークラリー ・よしの百年桜の授業　芳野野鳥観察会 中芳野中学習文化発表会（参観）	夏目漱石由来の文化活動 学校環境緑化関連の活動

＊　小：中学生が参加する小学校の単元名　　中：小学生が参加する中学校の単元名

＊　→：小中異学年交流の乗り入れの向き

（→：中学校の単元等へ小学生が参加、→：小学校の単元へ中学生が参加）

地域を学ぶ芳野学では、目指す児童生徒像「十五の春の姿―ふるさと『芳野』を誇りに思い、夢に向かって自立する児童生徒」達成へ向けて、９年間を通して、持続可能な芳野の実現に貢献する力を育む教育を推進する。低学年では自分や校区で働く人への関心を育てる。中学年から４年間かけて校区の産業や文化、環境等を学ぶ。中学では３年間かけて校区の創成や活性化へ関心を向け、社会参画体験へとつなげる。職員は９年間の系統を理解して指導する。

この芳野学の単元の一部に、小中異学年交流を設定する。より大きな集団規模を確保することで、年少者への思いやりや年長者への憧れを育み、双方向に成長への効果を生み出すようにする。そして、豊かな人生とよりよい社会の創造へ向けて主体的に行動できる素地を育む。

②小中異学年交流

ここでは芳野学や他教科等で実践した小中異学年交流について述べる。実践した異学年交流は、表３の通りである（時系列に配置）。

【表３　実践した小中異学年交流】　＊小５は河内小との合同授業が計４日あるため未設定

単元又は活動名（教科等）	実施学年	備考
中学校英語授業オリエンテーション（英語、外国語：１時間） ＊２年度３月に試行実施	中−１ 小−６	進学を控えた小学生に中学生が情報提供 いわゆる中一ギャップへの対応
通学路危険箇所確認会（行事：１時間）	中−全 小−全	合同学校安全対策協議会参加諸団体（芳野校区自治協議会、防犯協会等）の協力の下で実施
小中合同運動会（行事：５時間） 合同練習（体育：３時間）	中−全 小−全	一貫校開校以前から実施 結団式は特別活動扱い（１時間）
職場体験ナイストライ（総合的な学習の時間：２日間）	中−２ 小−３	教育関係希望者を対象に小学３年教室で実施 学習支援等の体験の中で交流
中学生に学ぶ「算数大好き！」（算数：２時間）、＊中学単元名は「先輩先生」（総合）	中−１　２ 小−３　４	過年度の熊本市学力調査結果への対応（課題：算数の基礎基本の定着） 中学生が小学生の算数の復習を個別支援
ハートのコスモス園プロジェクト（芳野学）	中−３ 小−２　３　４	中学の活動に小学が部分参加 中学は継続的に活動、小学は各学年１～２時間
漱石俳句ウォークラリー（芳野学）	中−１ 小−全	小学の俳句事前学習に中学が参加（乗入れ授業：今回、中学は模範作品提示で代替）
［芳野中学習文化発表会］ 芳野学成果発表、芸術による地域創成活動体験（芳野学）	中−全 小−全	芳野中学習文化発表会と地域創成活動体験で中学生が制作するオブジェを小学生が参観 高学年は直接、低中学年はオンラインで参観

上記のうち、（ア）ハートのコスモス園プロジェクト、（イ）芳野中学習文化発表会（芳野学成果発表、大規模地域創成活動体験）、（ウ）中学校英語授業オリエンテーション、（エ）中学生に学ぶ「算数大好き！」（中学単元名「先輩先生」）について示す。

ア【芳野学】ハートのコスモス園プロジェクト

a 目標［中学生］・継承したプロジェクトを自分たちの考えで改善しながら進めることで、地域創生に貢献する力の素地を主体的に育むことができる。

・小学生とともに活動することで、思いやりの心やリーダーシップを自ら育むことができる。

［小学生］・中学生に学びながら緑化活動することで、種まきの仕方等について新たな気付きを発見し、今後の緑化活動に生かすことができる。

・中学生とともに活動することで、優しさや思いやりのあるコミュニケーションスキルなどを感じて、憧れることができる。

b 活動［中学生］・畑づくり、種まき、水やりや除草等の手入れ、種の収穫

［小学生］・種まき、除草

ｃ内容　　中学生の「芳野校区に人を呼び込みたい」という願いから始まる地域創成の活動であり、３年生の取組は９年間の芳野学の集大成と言える。昨年度はメディアに取り上げられるなどの成果を挙げた。

【図８　中３と小２による種まき】

【図９　中３の常時活動】

【図１０　ベンチとスタンド】

その活動に小学生も参加することとなった。きっかけは小学生の「小学校でもコスモスを植えたい」という言葉である。

本年度は畑の面積を３倍に拡大し、中学３年生が継続的に活動した。小学生は種まき（７月・２年生：図８）、除草活動（９月・３年生、１０月・４年生）で参加した。

中学３年生が区画ごとの別種類の種まきと丁寧な常時活動（図９）が奏効し、時期をずらしながらコスモスは咲き続けた。花が咲きそろい始めた頃、中学３年生は来園対応を準備した。技術の時間を利用して、ベンチとスマートフォン用のスタンド（ベンチに座る人のセルフ撮影用）を製作して、それぞれ花畑の中央と隅に設置した（図１０）。

平日にも人が見学に訪れるなどの成果があり、１０月には市民のブログに紹介されていた。コスモスは１２月まで咲き続けた。

ｄ成果［中学生］・第一段階のコスモス開花と第二段階の人の呼び込みという明快な目標を掲げたことで、地域創生に貢献することができた。

・小学生と共同の活動を取り入れたことで、年少者に対する思いやりや寛容のある言動をすることができた。

［小学生］・種まきの仕方や水やりなどについて中学生からの学びを、秋の緑化活動に生かすことができた。

・中学生の優しさや温かさに触れたことで、優しい言動が増えたり、礼儀正しい挨拶等のコミュニケーションスキルの向上が見られたりした。

・ベンチとスタンド設置後に除草活動を設定したことで、中学生のおもてなしの心や地道な取組への尊敬、憧れの念を抱くことができた。

イ【芳野学】芳野中学習文化発表会（芳野学成果発表、芸術による地域創成活動体験）

ａ目的［中学生］・発表において、芳野学の活動をまとめることで、自分たちの学びを振り返るとともに今後の活動の見通しを持つなど、社会に貢献する力の育みを実感することができる。

・小学生の参観を意識して発表することで、分かりやすいように表現を工夫し、活動の継承を図ることができる。

・芸術による地域創成活動のオブジェ制作を通して、地域諸団体との連携等を体験することができる。

［小学生］・中学生の発表等を参観することで、芳野校区をよりよくしたいという願いとそれに向けて実行する大切を感じ取ることができる。

・芳野校区をよりよくしていこうと行動する姿に憧れ、「いつか自分たちも取り組みたい」という意欲を自ら持つことができる。

ｂ活動［中学生］・芳野校区のよさを調べての発表（１年）、芳野校区の再発見・学び直しの発表（２年）、芳野校区創成活動の発表（３年）、芸術による地域創成活動体験（全学年）

［小学生］・成果発表の参観、地域創成活動のオブジェ見学

ｃ経過　中学校の芳野学は、小学校６年間で学び取った芳野に関する知識を基盤に、３年間かけて芳野校区創成のために取り組む活動である。会ではその成果を発表する。

１年生は、芳野校区のよさや観光スポットをまとめ、「各地点に招き猫を設置してはどうか」と提案した。２年生は、修学旅行事前学習を兼ねて京都・奈良と芳野校区を比べることで、芳野校区についての学び直した内容を発表した。タブレットを使って写真やキーワードを示して、参観者が理解しやすいように工夫した。３年生は実際に取り組んだハートのコスモス園プロジェクトなどを、メイキング物語風の劇とプレゼンテーションを併用して発表した（図１１）。

【図１１　芳野学成果発表】

【図１２　参観する小学生】

また、発表会終了後の第２部で芸術による地域創成活動を体験した。講師を招き、風船等で大がかりなオブジェを制作し華やかな空間を創るプロジェクトに取り組んだ。

小学生は高学年が中学校で直接、低中学年は小学校教室からオンライン参観した（図１２）。レインボープロジェクトのオブジェの見学についても高学年は中学校で直接見学（図１３）し、低中学年は撮影された動画を後日視聴する方式で見学した。

【図１３　オブジェの一例】

ｄ成果［中学生］・自分たちの取組をアウトプットした結果、小学生や保護者に活動のよさを称賛されたことで、今後の活動に自信を持って取り組もうと思ったり地域に貢献する有用感を抱いて自尊感情を高めたりすることができた。

・小学生の参観を意識して情報発信する場を設定したことで、相手意識を持って発表方法を工夫することができた。

［小学生］・３学年の取組を順に参観することで、各学年の学習内容を具体的に知るとともに①課題発見②情報収集と整理③実践とまとめという問題解決の過程を知ることができた。

・芸術による地域創成活動のオブジェを見ることで、中学生の行動力に憧れを感じることができた。

ウ【小学外国語・中学総合的な学習の時間】中学校英語の授業オリエンテーション

ａ目標［中学生］・中学１年で学んだ英語を用いて紹介することで、１年間の学びを振り返ることができる。

・小学生の想定質問の回答をあらかじめ考えることで、分かりやすい言葉の使用や不安の払拭等相手に配慮する態度を養うことができる。

［小学生］・中学生の英会話等を目の当たりにすることで、中学校英語の学習に関心を持つとともに小学校外国語との違いを感じ取ることができる。

・中学１年の授業について教えてもらうことで、中学英語に関する不安を和らげることができる。

ｂ活動［中学生］　英語の暗唱や英会話の披露、授業等に関する説明（日本語）

［小学生］　英語の暗唱や英会話の参観、授業等に関する質問

ｃ内容　本授業は、小学６年生を対象としたオリエンテーション活動であり、いわゆる中一ギャップの軽減もねらった学習活動である。

【図１４　英語で説明する中学生】

【図１５　質疑応答の場面】

本授業は、中学１年生が小学６年生教室を訪問して実施した。初めに３学期に学んだ英語を披露して小学生の関心を高めてから、中学生が英会話を披露したり（図１４）、授業の様子や小学校外国語と中学英語の違いなどを説明したりした。中学教師の進行で小学校外国語の内容に合わせてのゲームもして、児童が前向きに感じるように工夫した。質疑応答では、小学生から「どのようなことが難しいか」など小学生は積極的に質問を重ねていた（図１５）。

小学６年の外国語の指導（週１時間）と中学英語の指導は同じ教師が担当している。教師は小学外国語と中学英語の系統や、児童生徒の性格等を熟知しており、生徒は安心して英会話を披露したり、児童からの質問に回答したりした。英会話には当日参加したＡＬＴも加わり、和やかな雰囲気で学習が進んだ。

ｄ成果［中学生］・英会話の披露や英語の内容の説明という目標を掲げて準備したことで、中学１年生の学習内容を学び直すことができた。

・年少者に配慮しながら説明したことで、相手意識を持ったコミュニケーションを心がけることができた。

［小学生］・中学英語と小学外国語の学習の共通点や相違点を感じ取るとともに、中学英語の学習が小学外国語を基盤として学習していくことに気付くことができた。

・中学英語に関する不安を軽減するとともに、進学後の学習意欲を高めることができた。また、英語以外の教科についても質疑応答で知ることができ、翌週実施の芳野中学校体験入学の参考にすることができた。

エ【小学算数・中学総合】中学生に学ぶ「算数大好き！」（中学単元名「先輩先生」）

ａ目標［中学生］・小学校中学年児童の算数学習を支援に当たり予習することで、内容に関する気付きなど自らの学び直しができる。

・小学生から感謝されることで、人のために役立っている自分のよさを実感することができる。

［小学生］・中学生からいわゆる個別最適化に近い状況で支援されることで、自分のつまずきに応じて学び取ることができる。

・中学生の優しさや思いやりのある支援の下で、安心して復習に取り組むことができる。

ｂ活動［中学生］　自分の担当する小学生の個別支援

［小学生］　指定された単元の復習

ｃ内容　本授業は、学力向上対策の一環であり、前年度の熊本市学力調査の結果分析を反映している。小学校算数と中学校数学に低迷が認められたため、小学生の基礎基本の徹底と中学生の学び直しを目的として設定した。

【図１６　個別指導の様子】

【図１７　教師による巡回】

【図１８　お礼を伝える小学生】

本授業実施は１学期末である。中学１・２年生が２班に分かれ、小学３・４年生教室を訪問して２時間扱い（１日各１時間）で実施した。中学生には取り組む内容を事前に伝えることで、必然的に自ら予習に取り組むようにした。

児童生徒の実態をもとにあらかじめ設定してあった組に分かれ、学習会は円滑に開始された。小学生はリラックスかつ真剣に学習に取り組み、中学生は小学生を優しく見守り、称賛したり説明したりした（図１６）。

小中の教師が巡回し、指導や理解に苦慮している状況があった場合に指導の支援をすることで、当該生徒の自尊感情や指導意欲が低下しないように配慮した（図１７）。中学１年は、３月に「中学校英語の授業オリエンテーション」で教わる側も経験しており（Ｐ１０参照）、より相手意識を持って接していた。小学生は丁寧な説明を受け、正解するたびに中学生から称賛されて意欲的に取り組んでいた。

ｄ成果［中学生］・小学生の指導のためにまず自分自身が理解しておかなければならないという状況を設定したことで、主体的に予習して学び直すことができた。

・支援した小学生の喜ぶ姿に接したことで、自己有用感が高まった。

［小学生］・自分の困り感に応じた支援をすぐに受けられたことで、できない点を把握した上でやり直すことができた。

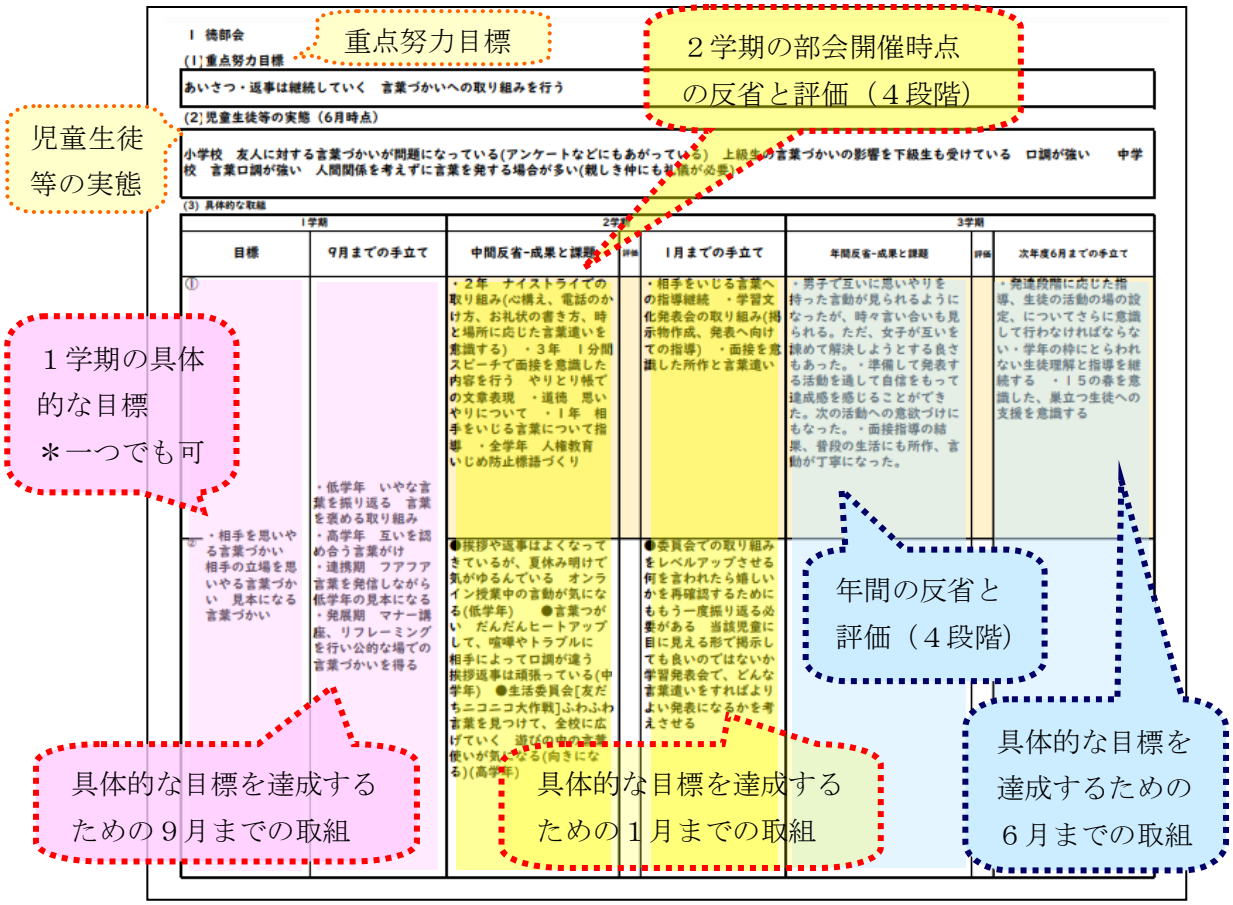
・思いやりのある支援を受け、安心して学習に取り組むことができた。困り感に応えてくれる中学生に感謝や憧れの気持ちを持った（図１８）。

(3) 持続可能な小中一貫教育の推進について

①徳知体部会記録表

徳知体の各部で立てる目標や手立てを共通理解するために作成した。保小中連携の日に開く各部会で決定した目標や手立てを記録する。決定した取組を実践し、次の部会で評価して必要に応じて手立てを修正する（図１９）。各部会の記録は各部会長がタブレットで職員に配付し、デジタル版で共有する。各職員はそれを基に徳知体の実践を継続する。

このように、職員自身が本校の課題と対策を明確にし、ＰＤＣＡサイクルの中で取組を持続した。



【図１９　徳知体部会記録表の例（徳部会）】

②研究理論共有と小中合同大研の実施

本一貫校は開校以来、研究主題「一人一人が深い学びを求める児童生徒の育成」を共有してきている。令和２年度は３度の合同研修（年度当初と末の理論研、夏季休業中の研修）を開催した。合同研修部会の提案で、本年度は小中合同授業研究会（小中各１本）を設定して年５回の計画とした（表４）。

【表４　小中合同研修計画】

回/月	第１回/５月	第２回/８月	第３回/１０月	第４回/１１月	第５回/２月
内容	理論研	研修	小学大研	中学大研	理論研
備考	研究理論共有（講師招聘）	人権教育授業づくり（講師招聘）	６年算数（講師招聘）	１年英語（講師招聘）	反省と次年度への志向

＊［講師］第１・３・４回…教育センター指導主事、主任主事　第２回…元人権教育指導室指導主事

ア　小学大研

a 学年・教科・単元名　６年算数「図形の拡大と縮小」

b 授業の概要

・直接には測定できない高さを、縮図を活用して求めることができることを学び取る授業（図２０）

・修学旅行訪問先の施設を提示して「高さを求めたい」という思いをもとに、問題を作った。

・「直接測ることのできない高さを求めるにはどうすればよいか」「縮図の辺の長さを何ｃｍにすればいか」などの問いを引き出し、スモールステップで解決を進めていった。

【図２０　小６の授業の様子】

c 授業研究会での発言、事後の感想例（中学教師分）

・児童のつぶやきから問題を作って問いを引き出すという導入が主体的な学習につながっていった。既習事項の掲示も児童の主体性を引き出していた。とても学びになった。

・教師が対話を適切に舵取りしていたことで、児童は学びを深めていた。教師が本時の目標を理解した上で対話の見通しを持つ大切さを感じた。

・縮図の三角形について、辺の長さが３：４：５の比になるような問題を出題すれば、中学数学で学ぶ三平方の定理につなげることができるのではないか。

d 成果

・中学職員にとって、児童主体の授業づくりや小学校の丁寧な指導の手法を学ぶ機会になった。

・配慮を要する児童を見ることができ、生徒指導面での共通理解を促進する機会にもなった。

イ　中学大研

a 学年・教科・単元名　１年英語「Ｕｎｉｔ６　Ｃｈｅｅｒ　Ｕｐ,Ｔｉｎａ」

b 授業の概要

・主語が三人称単数の場合で、一般動詞やｂｅ動詞を使って自分の好きなキャラクターを紹介する活動（図２１）

・ＡＬＴに分かりやすく紹介するという目的や、肯定文や否定文を用いるという課題を意識させた上で活動を始めた。

・生徒は、班活動においてスピーチの練習をしながら互いに評価しあい、ロイロノートに録画するなどして客観的になれる方法で自己評価しながら表現を工夫していった。

【図２１　中１の授業の様子】

c 授業研究会での発言、事後の感想例（小学教師分）

・めあてを生徒から引き出したことで、生徒は適宜めあてに立ち返りながら活動に取り組むことができた。生徒主体の導入が創り出す効果であると感じた。

・教師の英語に生徒も自然に英語で反応していて、学びの積み重ねの大切さを学んだ。

・小学校時代の学びが中学でも確実に生かされている場面を見て、系統の大切さを感じた。小学校の外国語活動、外国語と中学校の英語の系統を確認して小学校で指導しようと思った。

d 成果

・主体的･対話的で深い学びを具現化する授業改善の継続を共通理解することができた。

・小中学校の系統を理解して指導する大切さを実感することができた。

③小中一貫校だより

ア　目的　　・保護者や地域に一貫校としての観点から教育活動を広報する。
　　・学校が取組を整理し振り返り、ＰＤＣＡサイクルによる改善に生かす。

イ　配付対象　　・校区全世帯（自治会を通して配付）及び公的施設（コミュニティーセンター等）
　　・小中学校職員（合同研修部会資料とともによしの金峰ガイドにまとめている）

ウ　発行回数　　・５回（４月・７月・１０月・１２月・３月）
　　・学校はＰＤＣＡサイクルによる改善のための記録として生かす。

エ　一貫校だよりの例（(図２２：吹き出しに記事の趣旨を記載）

「小中一貫校としての授業紹介」

「乗り入れ授業の意義」
・中学職員の専門性を生かした学力向上
・中一ギャップの軽減

芳野小中一貫校だより「肥後三山」　令和　3年12月　3日　第4号　文責　西嶋

小中学校で学びをつなげる

芳野小中一貫校では、生活科・総合的な学習の時間を「芳野学」と名付け、小中学生のつながりを意識した学びの場を設定しています。他教科でも、子どもたちの学びをさらにつなげるべく、中学校教員による小学校一部教科における学習指導や、小中学校教員がともに研修に臨む「合同研究授業」等を設定しています。

中学校の専門的指導が小学生を伸ばす

芳野小中一貫校では、中学校教員による小学校一部教科における学習指導を実施しています。これを中学校から小学校への**乗り入れ授業**といいます。乗入れ授業には**定例**の授業と**単発**の授業があります。

定例の授業はいずれも５年生と６年生を対象に、週当たり**外国語**１時間ずつと**音楽**１時間実施しています。単発の例としては、本年度は**国語**（全学年・俳句の指導）や**理科**（６年・地層の指導）等を実施しています。小学校の学習発表「芳野『まごころ』発表会」の合奏を始めとして、いずれも中学校教員の**専門的な指導**が小学生の**学力向上**に寄与しています。

【芳野小「まごころ」発表会の６年合奏】

同時に、中学進学時に生じる子どもの**不安感の軽減**も図ることができます。今後も**学力向上以外の効果**も模索していきます。

小学６年算数　合同研究授業　中学１年英語

10 月下旬、熊本市教育センターから主任主事を講師として招聘し、６年算数の研究授業を実施しました。内容は、縮図を利用して建物の高さを調べる学習でした。

子どもたちは考えるべき課題を**自ら**見出し、**話し合いながら**解決していきました。中学で協働的に対話して**学ぶ力の素地**の育ちが見られました。

【授業の様子】

11 月中旬にも熊本市教育センターから指導主事を講師として招聘し、１年英語の研究授業を実施しました。内容は、英語によるスピーチの練習をする学習でした。

タブレットを**活用**しつつ自ら**目標を意識**して対話するなど、小学校時代に培われた力を生かし、**さらに高みを目指す**などの成長が見られました。

【授業の様子】

芳野小中一貫校は「**ふるさと『芳野』を誇りに思い、夢に向かって自立する児童生徒**」を目指す子ども像として掲げています。その実現へ向けて、今後も小中学生の成長を小中学校の職員で**共通理解**していくための研修に臨み、**学びのつながる教育**を推進していきます。一貫校へのご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

＊芳野小中一貫教育へのご感想を教えていただきますと幸いです…（狭いので裏面も可です）。各学校へご提出ください。

芳野（小・中）　学年（　　年）　お名前（　　）

「小中合同研究授業の意義」
・小中職員による系統的な授業の取組
・児童生徒の学ぶ姿

「小中一貫校の目指す姿の確認」
・授業改善への思い

【図２２　小中一貫校だより「肥後三山」第４号】

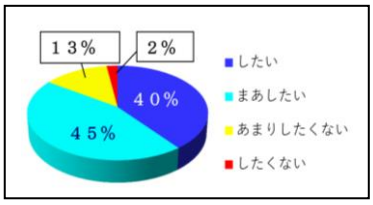
オ　成果　　・「取組の素晴らしさを実感している。音楽等小学校の学習が基本となり、中学校へつながっている。」「各教科で（系統的に）つながる授業ができればありがたい。」(小中共通の保護者）など、小中一貫教育への肯定的な感想が寄せられた。
　　・職員にとって、小中一貫の観点から取組を振り返る材料とすることができた。

３　全体考察

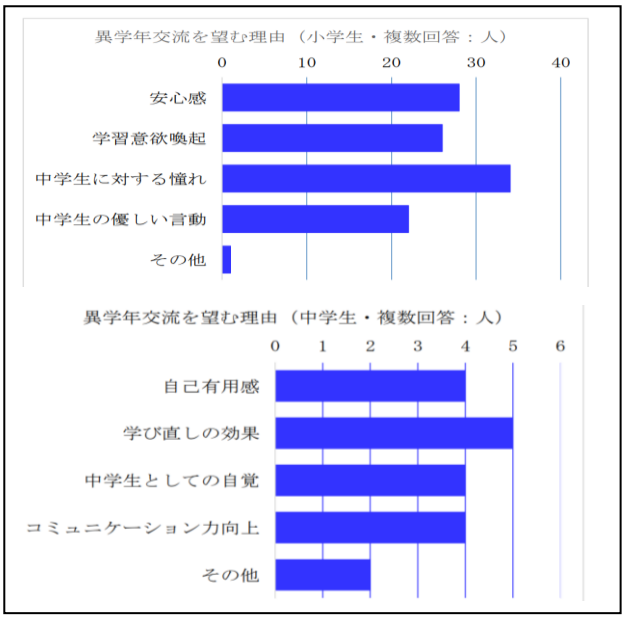
(1) 質問紙調査の結果より

ア　児童生徒への効果

小学３年生以上の児童生徒を対象に小中異学年交流をしたいかどうかを質問した（選択肢「したい、まあしたい、あまりしたくない、したくない」)。その結果、「したい」「まあしたい」が８５％、「あまりしたくない」「したくない」は１５％だった（図２３)。理由として、小学生は「中学生に対する憧れ」、中



【図２３　小中異学年交流を希望する児童生徒の割合】



【図２４　異学年交流を望む理由】

学生は「学び直しの効果」を最も多く挙げた。ただし、他の項目も同程度挙げている（図２４）。

中学生は「相手の気持ちを考えながらコミュニケーションを取ろうとした。」「自分で考える力も必要になってくる。」などと記述している。異学年交流を通した社会性育成機能の発揮が「憧れ憧れられる育ちの環」を創出し、幅広く効果を与えていることが分かった。

イ　職員への効果

職員を対象に、小中一貫教育推進における芳野小中一貫 Spirits とよしの金峰ガイドの有効性を尋ねた（選択肢「有効だった、まあ有効だった、あまり有効ではなかった、有効ではなかった」）ところ、どちらも「有効だった、まあ有効だった」で１００％を占めた。

表５は、職員が質問紙調査における自由記述の一部である。運営体制の可視化がもたらした有効性に言及している。また、ＰＤＣＡサイクルへの効果についての記述もあった。

以上のことから、運営体制の視覚化は、９年間を見通した教育の推進や学校運営参画意識の向上、年間を見通した教育実践の促進に一定の効果があったと判断した。

【表５　職員の自由記述した成果】

- 小中一貫教育の趣旨や方向性が理解でき、自身の立ち位置を明確に捉えることができた。
- 部会では小中双方からの提案が互いに刺激となり、協力につながることを体感できた。
- ９年間を見通した教育の実現できるのも、組織の整備と実践の賜と思われた。

(2) 今後の取組

小中一貫教育のさらなる推進のために検討すべき具体的事項は次の通りである。

- 小中一貫教育の基盤を強化するための保小接続（芳野保育園との連携）
- 午前と午後の授業開始時刻をそろえるなど小中異学年交流を設定しやすくする時間割設定
- 特別支援教育の視点を取り入れた授業改善（新年度芳野中学校に特別支援学級設置予定）
- オンライン支援を受けている不登校生徒の受入と異学年交流の活用（芳野中が現研究モデル校）
- 芳野中学校プールの共同使用へ向けた準備（令和５年度プール使用再編モデル校予定）
- 児童会と生徒会の共同活動を通した自治力や社会参画力の育成（校則の見直しなどを通して）

さらなる推進のためには①児童生徒、保護者、職員の質問紙調査による目指す姿の明確化②小中合同説明会の年度当初実施による方向性共有が必要となる。保護者、地域とも目標や見通しを共有し、ＰＤＣＡを通して効果を実感しながら小中一貫教育を推進していきたい。

４　引用文献・引用資料・参考文献

1) 文部科学省『小中一貫した教育課程の編成･実施に関する手引き』文科省ホームページ 平成２８年
2) 熊本市統計情報室『人口統計表』熊本市役所ホームページ 令和３年
3) 倉橋学園（広島県呉市立倉橋小学校・呉市立倉橋中学校）『倉橋学園視察資料』 令和２年
4) 文部科学省『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する事例集』文科省ホームページ 平成３０年